

雅ねえの、みんなで取り組む

獣害対策講座 Vol.3

※タイトルに記載している『雅ねえ』の表記は、本人の原稿どおりで掲載の了承を得ています。

おさらいと予習

はい、毒舌講座の三回目です。

獣害対策は『動物が悪い、イノシシを何とかするのが対策だ』っていう思い込みを捨てて『被害は自分が餌付けしたから、餌付けやめるのが対策』って頭の切り替え、だいぶ進んだかな？

今回もちよっとおさらいと予習。

前回

漏水田や代かきのいい加減な田んぼは餌付けがすすみやすい、柵は張り方によっては逆効果、欲張って山際まで植えた田んぼは最初から柵は効かない、稲刈り済んだ後こそ柵は効かせろって言ったんだけど、覚えてくれるかしら？

今回

ぐんぐん成長が進む露地の果菜の餌付け防止の話だよ。

コメ農家さんも、畜産農家さんも、果樹農家さんも、ちよっとした菜園があつて自家用野菜は植えてるだろうし、うちは家庭菜園だけーっ

て方も、その菜園が餌付け進めることが多い。その中で、今回は果菜類の話だけど、最後まで読んでみてね。

菜園の獣害対策

果菜類の獣害対策も、餌付けをやめるって基本は同じ。おコメの獣害防止も栽培の基本が大切って話したけど、果菜類も同じ。

守れる畑で、守る値打ちのある果菜しつかりと作ってくださいな。

ナス

ナスって日照と肥料と水。主枝を3〜4本決めてこれをV字型に広げて誘引すると、株の中心までしつかりと日があたるでしょ。しつかりと日があたると、その主枝のすべの葉の付け根から側枝(脇芽)がでる。その脇芽にできた果実は枝元の葉一枚を残して枝ごと収穫する。これを切り戻し収穫っていう。ナスって葉が2枚出るとに花が咲くから、いつも枝のどこかで花が咲き果実がそだっている。だから、肥料は切れないようにこまめに追肥すること。そしてできるだけこまめ

に若穫りする。

株の元気を保つ上で一番の大敵は採り忘れ。

水切れ、肥料切れになる↓果皮が固くなってひび割れ果↓収穫しないで放置↓急速な株の衰退。とにかく古い果実を枝に残すっていうのがナス栽培の失敗の原因だから。割れて種が見えて煮物にも漬物にもならない果実でも残してはだめ。だからといって摘んだ果実を草むらなんに捨てればコオロギやスズムシが寄ってくる。

ムシの好きなイタチ、テン、アナグマ、タヌキも寄ってくるでしょ。必ず柵の中に捨て場作ってクズ果も動物には食わせない。

トマト

トマトも獣害対策は栽培の基本をしつかりやること。

マグネシウム、カリウムみたいな微量要素欠乏になると葉脈間の黄化とか尻ぐされがでやすい。それから、露地トマト栽培の大敵は肥料の効きすぎ。

茎の中間が株本よりも太くて葉が内巻になっていたり、花房なのにその先が葉に変化してたら、肥料の効きすぎ。そんな肥満トマトは軟腐病になりやすいし、ちよっとした雨で裂果する。

尻ぐされや、裂果したトマトってやっぱり放置されやすい。

放置されやすいといえば、菜園のミニトマト。

なりはじめ頃は今日は5個採れた、7個採れた、子供のお弁当に使えるねって楽しみで採るんだけど、そのうち食べきれないくらいなり始める。畝間には採り切れない完熟果実が落ちてたり。

放置されればみんなカラスや小動物の餌でしょ。

菜園の周りをカラスや小動物がうろうろすれば、畑の周



図1 『ナス』の仕立て方